

市民公開講座「日本聴覚医学会×山形大学×リオネット補聴器」タイアップセミナー

聞こえと脳の深い関係

日本聴覚医学会と山形大学、そしてリオネット補聴器のタイアップによる市民公開講座「聞こえと脳の深い関係」が10月8日、山形市の山形テルサで開催されました。リオネット補聴器アンバサダーの井上順さんと、慶應義塾大学名誉教授の小川郁先生、山形大学医学部教授の欠畑誠治先生が登場し、聞こえることの大切さや補聴器の選び方などについて分かりやすく解説。笑顔に満ちたセミナーになりました。



歌手・俳優／リオネット補聴器アンバサダー

井上 順さん

1947年生まれ。ザ・スパイダースのボーカルとして「あの時君は若かった」などのヒットを生む。ソロになってからは歌はもちろん、音楽番組での司会をはじめ、映画やドラマなどでも活躍中。リオネット補聴器アンバサダーも務めている。

第1部 ① トークショー

ボクの愉快的な交友関係は まだまだ続く

僕も今年で75歳になりました。「えー?!」って驚いてくださりありがとうございます(笑)。僕自身も、年を取っている感じが全然しないんですよ。多くの方から元気をもらっているから。

そんな僕が耳に不調を感じたのは50代半ばでした。「え？今なんて言ったの？」と聞き返すことが多くなつて受診を勧められた。お医者さんは「順ちゃん、難聴だよ。若い頃から耳を酷使したせいもあつたんでしょう。「治らない」と言われてびっくりしました。

それで紹介されたのがリオネット補聴器でした。耳の穴の型を取り、びつたりの物を作ってもらった。初めて着けた時、驚きましたね。「こんなに聞こえるんですか!? うそでしょ?」。人生が変わりました。うれしい瞬間でした。

それから僕は補聴器を着けていることを隠さず、オープンにしています。それで仕事を断られるどころか、「いいんだ、順ちゃんに出てほしいんだ」と言ってもらえる。泣けてきますよ。時代劇のオファーを頂いた時も、「戦国時代には補聴器を着けている人はいないでしょ」と不安を正直に打ち明けました。すると、僕の役は、頭巾をかぶっている設定になっていたんです。そこまで考えてもら

えたことに感動しました。難聴になり僕は、たくさんの方の優しさに触れ、現役で頑張ることができています。山形でもこうして大勢の方にお会いして、お話ができる。とてもうれしいです。これも難聴のおかげ。補聴器のおかげ。ありがとうございます。



慶應義塾大学名誉教授／オトクリニック東京 院長

小川 郁先生

聴覚医学の第一人者。専門は耳科学、聴覚医学、頭蓋底外科など。補聴器相談医。

第1部 ② 講演

耳から始める脳の活性化 補聴器使用の有用性

音を聞いているのは「耳」ですが、音を認識しているのは「脳」です。聞こえによる脳の活性化や、難聴が脳に与える影響、認知症との関係をお話しします。

日本では高齢化が進み、2020年には100歳以上の方が8万人を超えました。これからは100年の人生設計が必要です。100年使

井上 コロナ禍でずっとステイホームでしたが、こうしてリアルな場で、会場の皆さんの反応を感じながらお話しできるのはやはり良いものですね。欠畑 聴覚に関して、難聴になるとどうしてもこもりがちになり、コミュニケーションが減つてますます悪化してしまう問題があります。



井上 順さん×小川 郁先生×欠畑 誠治先生 トークセッション

小川 難聴は「ほほえみの障害」ともいわれます。見た目では難聴とは分からない。また本人は聞き返すのがおっくうで「ほほえみ」で済ませてしまふ。その状態が長く続かないよう早めに介入することが必要です。

井上 僕も、話を止めちゃうのが嫌で聞こえるふりをしていた。そんなに僕に、新しい世界を開いてくれたのが補聴器です。高齢化が進む中、これからますます多くの人に必要な物になると思います。

小川 そこで大切なのは、専門家の診断を受けてから購入すること。通信販売などでも補聴器が買えてしまうのは、先進国では日本だけ。だから

自分にならなくて使わない「タンス補聴器」が増えてしまう。欠畑 耳の状態に合わない補聴器を持っていても、視力に合わない眼鏡をかけているようなものだからね。

井上 自分に合った補聴器を着けると、世界はこんなにいろんな音があるんだと改めて感じることができると思います。自分への投資だと思つてトライしてほしいですね。



司会は山形放送の青山友紀アナウンサーが務めた

て壊れない機械がないように、耳の機能も低下します。聴覚は一度失うと元には戻りません。問題は、難聴を放置しておく、脳への刺激が少なくなり、認知症を進める要因にもなることです。

そこで必要なのが補聴器です。しかも、ただ装着するだけではなくトレーニングが必要。購入された方は

ぜひ音読をしてください。補聴器を通して自分の声を脳で聞く訓練をすることができます。早め始めてほしいです。

また、日本では欧米に比べ、補聴器を必要とされる方の装着率がとても低いのです。私たちの働きかけにより、東京都内では16の自治体で購入費用への助成が始まりました。全国に広がるよう期待しています。

山形大学医学部
耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座教授
欠畑 誠治 先生
日本耳科学会理事長も務めている。低侵襲的な内視鏡中耳手術の第一人者。補聴器相談医。

山形県の高齢化率は34%で全国6位。聴力は年齢とともに落ちていきますが、「聞こえ」は人生にとって大切なものです。聞こえに不安を感じた時、大切なのは自分の聴力を客観的に知ること。ぜひ専門の医師に診てもらってください。補聴器はその上で、認定補聴器技能者のいる補聴器専門店と相談して下さい。

そして補聴器を着けていることを、周囲に伝えることをお勧めします。補聴器を着けても相手が早口だと聞き取りにくいこともあります。補聴器の助けを借りながらコミュニケーションを楽しみ、人生をより豊かなものにしていただきたいです。

補聴器選びのプロセス

- 1 耳鼻咽喉科医師の診断を受ける
- 2 補聴器販売店での相談
- 3 補聴器の選択・調整
- 4 補聴器を試す
- 5 補聴効果の確認・購入
- 6 定期的なメンテナンス

この限りではありません

アフターケアも大切!

細かな調整を重ねてより快適に!

認定補聴器技能者のいるお店へ

難聴の原因はさまざま!